

「ワクワク学び隊」 実践交流会

本日の実践交流会を振り返り、
今後に向けてのお話

コメンテーター：
曾余田浩史(広島大学)

放課後子ども教室は、 豊かな「生涯学習」の場

- ・子どもたちにとって
- ・ボランティア自身にとって
- ・教員をめざす者にとって
※「学び続ける教師」

生涯学習:いつでも・どこでも・誰とでも

	学校教育	生涯学習
制度	形式的・固定的	非形式的・弾力的
学習目標	生涯学習の基礎 知識と技術の基本 社会生活のルール 学び方の学習	自己教育力 生きがい 日常生活の能力、職業生活の能力 つながり・社会連帯意識・コミュニティ の活性化
指導者	教師	多様(他者、自己)
学習者	児童生徒、等質集団	異質集団、多様、 ※ナナメの関係
学習内容	基礎的、原理的、限定的 ※答えあり	体験的、実際の、 多様性と自由選択 ※答えなし
学習形態	教師主導、組織的、計画的	自己主導、相互学習 ※主体的な学び
学習期間	限定(6・3・3制)	生涯(子ども～高齢者)

子どもたちにとっての「放課後」
の価値は？

昔、「放課後」で学んだこと

- ・自分で身近な実社会の環境を探索し、自分なりの世界をつくりあげる。
- ・手足・五感を働かせ、試行錯誤しながら没頭して遊ぶ
- ・異年齢の集団で遊び、自分たちでルールを作り、年長者が年少者の世話をしながら、人間関係の機微を体得。
- ・地域の大人などとの交流、知的刺激・知恵など

子どもたちにとっての 「放課後」の価値

- ・子どもの主体性の発露
- ・学校での教育活動と違って、答えがない
- ・人との関係を持つこと
- ・体験的に学ぶこと
- ・「遊び」の中に「学び」がある
 - ※「遊び」と「学び」の区別は意味がない

創造性(自分を発露)の発芽条件

- ①興味関心が変わっても許される自由度が高い環境(あることならについての興味関心は、いつ沸き起こるかわからず、何かのきっかけで別のことにも興味関心は移る。)
- ②試行錯誤をしながら失敗経験も重ねて改善していくことのできる時間
- ③おもしろく知的好奇心を喚起させてくれる大人、寛容な大人、話がわかる大人などが身近にいて、創造性を育む芽を守ってくれること。

指導者として

○ナナメの関係 ⇔ 上下関係

- ・「教える」「お世話する」より、「ともに学ぶ・楽しむ」に重点
- ・大人が手を出せば出すほど、大人に依存。

○活動を終えた時点ですべての欲求を充たすのではなく、主体的な活動へとつながっていくような支援

- 「今度は自分たちでやってみたい」
- 「帰ってから家族で楽しもう」
- 「友達とやってみよう」

参考文献

- 特定非営利活動法人 教育支援協会『豊かな放課後と放課後教室のあり方』（平成20年度 文部科学省委託事業 総合的な放課後対策推進のための調査研究事業報告書）
- 特定非営利活動法人 教育支援協会『豊かな放課後を全国に』（平成21年度 文部科学省委託事業 総合的な放課後対策推進のための調査研究事業報告書）